

地域おこし協力隊活動記

福島県にいる協力隊の交流や連携

皆さん、こんにちは。今回の話題は県内の他の地域で活躍する協力隊との交流についてです。

1月中旬に東京で「J O I N 移住・交流&地域おこしフェア」が開催され、小野町も来年度の隊員募集に向けて出展しました。県内市町村のブースが近くに集まっていて、来場者の対応だけでなく、隊員同士が交流し互いの地域や活動を知り合うこともできました。

また県にあるふくしま連携復興センターでは県内各地の復興支援員や協力隊の連携を図っており、1月末にはその人たちが一斉に集まる研修会が開催されました。研修会ではグループで地域の課題や解決策について議論をします。その他の時間では隊員ならではの悩みや考えを共有したり、各地域で開くイベントへ誘われたりする機会があって、近くに協力できる仲間がいるのだと実感しました。

他の地域にいる隊員による活動は興味深く参考になり、刺激にもなります。連携することで相互により良い結果を出せる取組みには積極的に参加したいと思います。



古崎です。地域おこしフェアでは長野県天龍村の協力隊にも出会いました



会場では福島県の隊員と助け合いながら、競い合いながら、来場者に自分たちの地域をPRします

ふるさと小野町会

ふれあい通信

『愛する小野町』

荒川のうた合唱団
大石 里子

「ふるさと小野町」(荒川のうた合唱団(埼玉県戸田市)が歌うオリジナル合唱曲)を歌う時、いつもあののどかな小野町の風景を思い出しながら歌っています。会員の方が

「歌は普通春から始まるけど、この歌は秋なんだよな」と言ったことがあります。そうです、秋の小野町ふれあいフェスタにおじやました時、その風景を歌ったのですから秋の詩なのです。春訪れば見事な夏井川の千本桜を歌い上げることもできるでしょう。私は、ふるさと小野町会の皆さんと親しくお付き合いをさせていただくようになって小野町を非常に身近に感じるようになりました。小さな町なのに「高校三年生」や「高原列車は行く」の丘灯至夫記念館があったり「リカちゃんキャッスル」があったり、永六輔、中村八大、坂本九をはじめ、たくさん有名人の羅漢があったりと、町をあげて「おらが小野町」に誇りを持っていることに感銘をうけました。初めて小野町ふれあいフェスタを訪れた時、絵手紙コーナーに素晴らしい沢山の絵が飾ってありました。私も少々経験がありとても興味があったので婦人会長の阿部さんを紹介していただきました。その後阿部さんとは何回か絵手紙のやり取りをさせていただきました。ご夫妻で茶道



小野町を題材にした曲を披露する『荒川のうた合唱団』

もされており美味しいお茶までいただきました。前会長の先崎さんをはじめ福島県の歴史、小野町の歴史にとっても詳しい方々がいて小野町訪問のバスの中ではとても勉強になります。これも皆さんが事ある毎に郷里小野町に帰られ町や人を大事にしている証しと感心させられました。忘れ得ぬことです。「破裂するから栓をゆるめておいて！」と繰り返し言われていたきてきてからやみつきになった「一升漬け」です。戸田商工祭(埼玉県戸田市のイベント。小野町も出店。)でも毎年2個は買い置きしています。そのような訳でふるさと小野町会の皆さんとは切っても切れない関係があり大変嬉しく思っています。コンサートにもおいでいただき本当にありがとうございます。未永くお付き合いの程よろしく願います。